あんずの木

令和３年１０月号　　NO.65

今年も半年が過ぎました。あっという間ではありましたが、イベントが減って、時間があるように感じるからでしょうか、一日一日、秋色になっていく気配を味わえているように思います。

９月最終週より、あんずの支援を通常通りに戻すことができました。皆さんのご配慮、ご協力、思いやりに心より感謝いたします。感染対策には今後も十分に備えていきますが、空を見上げて両手を上げて深呼吸くらいはしてもいいですよね。身に付けてきたよい習慣は変えずに、これからも足元に気を付けながら、明日が楽しみになる今日を膨らませていきましょう。特別なことはいりません。みんなで当たり前の一日、秋を満喫していきましょう。

みんなでたくさん交し合い、話し合い、思いを言葉にしていきましょう。

―10月・11月の予定―

10月　６日（水）ＯＴ（児童）
10月14日（木）ＳＴ（児童）
10月21日（木）健康診断（児童）
10月26日（火）ＳＴ　（児童）
10月29日（金）ＯＴ（児童）
11月　４日（木）ＯＴ（児童）
11月　５日（金）ＳＴ（児童）
11月18日（木）ドクターＮの医療相談（共通）
11月22日（月）ＯＴ（児童）

＝お知らせ＝

≪就学・就園等、今後に関する相談について≫（児童・放デイ・訪問支援共通）

秋は、少し先のことを決めたり考えたりすることの多い時期です。就学や中学校への進学、幼稚園入園や保育所入所申請等について、子どもひとり一人の姿とご家族の思いや過ごし方に応じて進めていきたいですね。利用日に限らず、随時、相談の時間を設けられますので、“今”と感じたらすぐに声にしてください。些細なことでも構いません。「話してよかった」の思いは、その子、そのご家庭らしい選択に近づく一歩になると思います。

≪健康診断について≫（児童）

10月21日（木）14：10より、児童発達支援を利用しているお子さんを対象に定期健康診断を行います。（あんずの協力医療機関である櫻澤医院の茂手木先生が来ます）
既に申込用紙は配布しておりますが、あんずを利用しているお子さん全員が対象になります。
但し、幼稚園保育所又は、他の所属で健康診断を行っている場合は、健診を受けた証明（用紙はあんずで用意します）を１回提出していただければ、受診していただかなくて結構です。（希望者は受診可）

児童発達支援センターを利用する上での必須要件となりますので、ご理解の程、よろしくお願いします。

≪ドクターNの医療相談≫（児童・放デイ・訪問支援共通）

11月18日（木）14：00～16：00（一人30分枠）で、
埼玉医科大学総合医療センター小児科の奈倉道明先生による個別の医療相談を行います。
“ドクターの話を聞いてみたい”“診断や検査って？“セカンドオピニオンを聞いてみたい”等
ちょっとした思いで構いません。ご希望、ご関心のある方は声をかけてください。

【次回は2/17（木）です】

慣れではなく、習慣に！　コロナ感染症対策は継続します！

健康状態への早めの留意　　検温　　換気　　こまめな手洗い・消毒

＊大人は、マスクを着用されている方のみの入場可。子ども達のマスクは、できる子のみで。
＊子ども本人の他、ご家族に体調不良の方がいる場合の利用はお断りしています。
＊**ご家族の学校や職場等身近で感染者が出て、自分や家族が濃厚接触者に当たるかどうか不明な場合は、必ず申し出てください。自己判断で利用しないようお願いします。**
＊何か不安なことがありましたら、お気軽にご相談ください。

チョコレートクラスの9月あれこれ

チョコレートクラスでは、９月から“手押し車”を頑張っています！
床にしっかり手を付いて、足が浮いた体勢で前進するのは、なかなかむずかしいです。
お尻が上がりすぎたり下がりすぎたりしてしまうので、ひとり一人、子どもの足を持つところを調整しています。手や腕だけでなく、おなかや背中にも力を入れて身体を支えなくてはならないので、みんな一生懸命です！ しっかり手を開いて床をとらえ前に進めるように、繰り返し取り組んでいきましょう！

そして、マラソンの音楽が変わりました。今までと比べ、少し走り続ける時間が長くなりました。スタートしたときは余裕のある表情だった子ども達が、だんだん眉が下がり疲れてきた表情・・・それでも最後まで走り続けるみんな、素晴らしいです!!　かっこいい!!

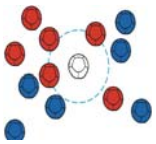
これからも一緒に頑張りましょう!

キャンディクラスの9月あれこれ

９月になり、マラソンの曲が変わりました。
はりきって走っている子もいれば、曲が変わったことにびっくりして、見ることからやり直した子もいて、それぞれのスタートでした。音楽に合わせて身体を動かし続ける姿はとても素敵です。みんなの汗がキラキラ光っています！

走った後のお茶もゴクゴクおいしい!! スポーツの秋、たくさん身体を動かして、身体作りをしていきましょう!

放デイのひとり言



放デイの活動で、子ども達みんなが大好きな“ボッチャ”で使うボールが新しくなりました。ホールに集まった子ども達が、ボールの入った黒いケースを開けた瞬間、「ワーイ！」「スゴーイ！」と、ピカピカの赤青白のボールを見て大喜び。

ゲームが始まると、一人ひとり白いボールに近づけようと慎重に狙って投げていました。制限時間になり、点数と勝敗が発表されると、「ヤッター！」「悔しい！」と。

ゲームの楽しみ、勝ち負けの嬉しさ悔しさを、短い時間でも、子ども達はたくさん経験し、学べています。ちなみに、一緒に参加した大人も、とっても楽しかったです。

保育所等訪問支援のある日あるとき

９月は、各園のコロナ感染防止の対策を伺いながら、粛々と訪問支援に伺ってきました。“配慮をしながら、できるだけ伸び伸びと”を実現されている先生方には感無量ですが、子ども達の笑顔がしっかり応えていて、その姿に私たちも「がんばらなきゃ！」と触発されています。

こんな場面がありました。Ａくんは、みんなと一緒にいたい気持ちはあるのに、輪の中に入ってしばらくすると、スーッと外れて離れたところから眺めていることが多い子でした。「ねえ、なんでみんなと一緒にいないでここにいるの？」と訊ねると、「だって、バレちゃうんだもん」の返事。なかなか奥が深いなと思いました。

Ｂくんへの訪問ではこんな場面がありました。運動会練習で頑張った後（楽しそうに参加していました）、園庭の隅に行き、大きくため息をついて、履いている靴で地面を掘り始めました。「見てたよ。頑張ってたね」と声をかけると、顔を上げずに「うん」と一言。なるほど、この子にとっては、ここまでがワンセットなんだなと教えられました。

その後、それぞれの園の先生方と、その子達の成長と背伸び、自分タイムの作り方について話し合いました。一歩、いや半歩かもしれませんが、その子達と更に近づけ合えたなら、そして、そのお手伝いが少しでもできたら、と思っています。10 月もよろしくお願いします。

あんず書店

『だめよ、デイビッド！』
さく）デイビッド．シャノン　（やく）小川　仁央

「デイビットのママは いつも いう… だめよ、デイビット！って」とはじまる、とってもわんぱくで、やんちゃなかわいい男の子とママのはなしです。ページをめくるたび「あらあら…」「ダメダメ」「うちの子も同じようなことをやってるわ…」と、ぷぷぷと笑いながら読めてしまう絵本です。たくさん「だめよ」と言われているデイビットですが、愛されているのが伝わる最後になっています。

最後のデイビットの表情も注目です。　（武田）

☆お　礼☆

９月は、たくさんのオモチャをいただきました。先輩から後輩へ引き継がれるオモチャは、子ども達が手にしやすいものばかりです。大切に使わせていただきます。ありがとうございました。

つながりリレーコラム

第 26 回目は、あきくさ保育園の 六平　優子 園長です。

保育園の中は全て「つながり」だらけです

「つながり」、大きく、大きく捉えると人類、自然界皆つながっていて、それはそれぞれが皆生きていくために必要なつながりと循環であり、長い年月にわたり繰り返された自然界の凄さを感じることができます。小さなつながりが徐々に広がり大きくなっているつながりの世界で、その始まりの一歩を見るような極々小さな あきくさ保育園でのつながりをお伝えします。

保育園の中は、子どもの世界そのもので、その子ども達の姿を見ていると、自らがつながろうとしていて、つながりたいと思っているだろうと感じる行動ばかりです。

よく見かけるのが、遠くで違う遊びで遊んでいた子が、突然、「やりたい、入れて」と駆けつけてくる、よくわかったねと思う行動があったり。そうかと思うと、泣いている子を見ては駆け寄ってきて頭をなでてくれたり等、気づいていないだろうと思うのは、大人の見方であり、実は、子どもは耳も目も鼻も口もフル活動でアンテナを張り巡らし、誰かと関わることを自然と行っています。そして、「ここだ!!」と思うと一目散にそこに駆けつけて行きます。毎日毎日誰かとつながって過ごしています。まるで子ども同士、見えない糸でつながっているようです。つい最近の事ですが、保育士が急いで部屋に入らないといけないことがあり、靴の向きを直さずに入っていくと、少し経った後、すべり台で遊んでいた２歳の女の子が、そっと靴のところに来て、その先生の靴の向きを変えたのです。そしてまた、すべり台のところに戻っていきました。言葉を交わしたわけではないけれど、それもつながり行動です。その行動が保育士同士の会話になり、脱いだ靴でたくさんの話がつながります。気が付くと、保育園に通っている人皆が、子どものことを知り、子どもの行動を通しながら会話につながっているのです

そんな日々の保育を理解し見守ってくださっている保護者の方々とのつながり、さらに、その姿を見守ってくださっている地域の方々、そして自治体や関係施設の皆様とのつながりだらけです。

だからこそ、つながりたい心を持っていたことを、少しでも長く覚えておいてもらいたいし、本物のつながりを大切にできる人になってもらいたいと願い、日々の保育の中でその心を大切にしています。